

きまりは何のために？
 ～きまりは自分たちを守るためにある～

- 1 学年 第8学年〔後期〕
 2 主題名 秩序と規律 4－(1)
 3 ねらい 学校生活のきまりについて考え、話し合うことを通して、法やきまりは自分たちの生活や権利を守るためにあり、それを守ることの大切さについて気付き、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てる。
 4 資料名 「きまりは何のために？」
 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	1 日常生活における経験を振り返る ○ 学校や社会のルールは何のためにあるのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪いことをしないため。 ・ 楽しく生活するため。 	○ 過去の体験を想起させる。
展 開	2 資料「きまりは何のために？」を読んで、問題点を考える。 ○ ここでは何が問題となっているのでしょうか。 【自分なりの問題の設定】 3 翔太の行動について考え、発表する。 ○ あなたが翔太なら、どうしますか。その解決策に対して、どんな気持ちからか、どうするかについても考えてみましょう。 ○ あなただったらどうすればよかったですか。自転車屋のおじさんのことばから、理由についても考えてみましょう。 【多様な意見に触れる】 4 自分の生活を振り返って話し合う。 ○ 身のまわりで、規則が守られていないと感じたときはどんなときでしょうか。 ◎ その問題を解決するためには、どのようなことを心がけていけばよいでしょうか。 【意見を練り合う】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 翔太が二人乗りをしたこと。 《自転車に乗せる》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達だから。 ・ 宿題を教えてもらったから。 《自転車に乗せない》 <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりだから。 ・ 危ないから。 ・ 自転車の設計は二人乗りするようにできていないから、健二に話して断る。 ・ 自転車の二人乗りは危険だし、周りの人に迷惑をかけるから、断った方がいい。 ・ 服装・頭髪がきちんとできていない。 ・ 不要物を持ってきている。 ・ きまりを守らないと迷惑をかけるし、信用も失ってしまうから、自分のことだけでなく、周りのこともよく見て判断し、行動していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳的な問題に気付かせる。 ○ ワークシートに記入することにより、自分の考えを深めさせる。 ○ 発表を聞き、多様な意見に触れさせる。 ○ 規則を守ることの大切さについて理由を明らかにしながらとらえさせる。 ○ お互いに意見を練り合い、ねらいとする道徳的価値にかかわって、大切にしていかなければならないことを考えさせる。
終 末	5 本時の授業を振り返る。 ○ ルールとは何のためにあるのでしょうか。 【道徳的価値を深める】	<ul style="list-style-type: none"> ・ きまりは自分たちのためにあるから、まず校則から守っていきたい。 ・ 学校や社会を秩序正しく保つため。 	○ 導入で提示した道徳的価値についての考えの変化に気付かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

社会にはきまりがあり、これを守ることによって個人の自由が保障されるということを理解させることは大切である。思春期のころになると法やきまりの意義の理解が深まる一方で、これらに反発する気持ちが見られる場合がある。

そこで、法やきまりは、自分たちの生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚を促し、法やきまりについての意義を十分理解させた上で、社会秩序と規律を自ら高めていこうとする態度を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

社会生活に触れ、社会に必要なルールとしての規律を学ぶキャリア・スタート・ウィーク実施前が効果的である。

イ 資料の中心場面やそこで考えさせたい内容

きまりだから守らなくてはいけいではなく、二人乗りは禁止だと知りながら、健二の頼みを断ることができず、事故を起こしてしまった時に思い出した自転車屋のおじさんの言葉を考えさせ、きまりのもつ意義を考えさせたい。

ウ 活用に当たっての留意点

問題解決的な学習過程を取り入れ、実生活に関わっての話合いの時間を設ける場合、本資料は展開前半で使用したい。

(3) 指導過程の工夫

ア 道徳の時間における問題解決的な学習

生徒が自分なりの問題を設定し、ねらいとする道徳的価値に関わって多様な考えに触れ、解決策をお互いに練り合い、実生活にねらいとする道徳的価値を結び付けさせたい。

イ 道徳の時間における問題解決的な学習過程

導入では、本時のねらいとする道徳的価値について自分なりの考えをもたせるために、生徒の個人的な経験や具体的な事例から振り返らせたい。

展開前段では、資料の中から道徳的問題を焦点化し、その解決策を話し合わせた後、学級全体で解決策について交流させたい。

展開後段では、グループでの話合いを取り入れたい。ここでは、身近な場面から同じような道徳的問題を取り上げ、解決策を考えさせたい。その際、解決策を考えることと合わせて、ねらいとする道徳的価値にかかわって大切にしていかななくてはならないことを押さえておきたい。こうした過程を通して、単に解決策だけではなく、これからの生活にどのように生かしていくのかという視点で考えさせたい。

終末では、導入で振り返った本時でねらいとする道徳的価値について改めて考えさせ、自分の考えの深まりに気付かせたい。